

# イブニング サロンNEWS

2007 2/2 第4号

(年6回発行)

イブニングサロン公式サイト  
[http://www.otacci.or.jp/  
commons/evening.htm](http://www.otacci.or.jp/commons/evening.htm)

発行  
「イブニングサロンNEWS」を発行する会  
(事務局・東方通信社)  
TEL:03-3518-8844



みどりが丘工場を案内する小菅会長

## 環境技術と先端技術が結集！ 自動車産業をテーマに技術アピール!!

2月2日(金)、第13回目の「新都心イブニングサロン」が行われる。今回のテーマは、技術立国ニッポンのお家芸ともいえる「自動車産業」。近年、穀物などからつくる「バイオ燃料」、それらを燃料に走るエタノール車など、環境配慮型の自動車づくりが注目されている。今回も最先端で研究・開発をしている達人たちの話からビジネスヒントを掴んでほしい。

### あえて重厚長大産業に挑戦しつつ 時代を切り拓く!!

#### 東洋パーツ(株)

BMW社や三菱重工業なども視察に訪れ、国内外から注目を集めている東洋パーツ(埼玉県長瀬町)。1953年の創業以来、「人がやらないことをやる」をモットーに

会社を発展させてきた小菅一憲会長は「雑誌やテレビの情報、みんなが見ているわけだから、その通りやってもうまくいかない。大事なことは自分が信じる道を歩むこと」と力説する。

同社の主力製品は、自動車用・産業車輛用のパワーステアリング、オイルポンプ、バルブユニット、過給器といった「重厚長大」型産業のパーツ。なかでも国内トラック用のパワーステアリング加工品では、約8割のシェアを占めるほどの実力を持つ。

オイルショック以後、日本の産業構造は「軽薄短小」型にシフトしてきたが、小菅会長はあえて時流とは逆の「重厚長大」型産業に挑戦し続けてきた。エレクトロニクス産業が全盛を迎えたときは、

同社の業績にも影響が出たが、「軽薄短小」型産業の多くが海外移転を加速させた頃から風向きが変わった。国内の産業空洞化が起こり、高い技術力を持つ企業が激減してしまっただけだ。その結果、同社は、数少ない有力工場として評判を呼び、さまざまな依頼が集中することになった。

「04年には岩田第2工場(長瀬町)を06年にはみどりが丘工場(秩父市)を新設したが、いずれも世間には不景気のときで、『なぜこんなときに』という声もあった。しかし、タイミングはバッチリだった」と小菅氏。まさに挑戦者といった感じだ。今後の同社の展開に注目したい。

本社・〒369 1311  
埼玉県秩父郡長瀬町岩田877  
☎0494 66 2121  
<http://toyoparts.com/>

## クリーンで燃費がいい ディーゼル車の未来形はこれだ!!

### 日産ディーゼル工業(株)

日本では排出ガスが環境を汚染するとして、ディーゼル車への風当たりが強いが、実は燃費がいいというメリットもある。排出ガスの問題をクリアしていけば、今後新しい展開が見えてくるのではないか。そこで注目を集めているのが、日産ディーゼル工業が独自開発した「尿素SCR（選択的触媒還元）システム『FLENS』」。

現在、05年10月1日から国内で販売されるディーゼル自動車には、世界一厳しい「新長期規制」（平成17年排出ガス規制）が適用されているが、同社は04年11月に約1年近く前倒しして、世界で初めてこのシステムを適合させ、生産・販売を開始し話題を集めた。

これはアンモニア（NH<sub>3</sub>）が窒



環境に配慮した同社のトラック



技術に自信を見せる小川常務

素酸化物（NO<sub>x</sub>）と化学反応することで、窒素（N<sub>2</sub>）と水（H<sub>2</sub>O）に還元される原理を応用しており、タンクに入った尿素水を排気中に噴射することで高温下で加水分解させアンモニアガスを得るといったもの。

従来と比較するとクリーンだけでなく、燃費もいい。同社では、今後三菱ふそうにも供給を予定している。ちなみに、ダイムラークライスラーもこのシステムを実用化しており、欧州でもすでに普及がはじまっている。しかもメルセデス・ベンツではこのシステムを搭載した乗用車まで生産している。

同社執行役員常務の小川博氏は「このシステムは、今後グローバルスタンダードになり、競争も激しくなるでしょう。しかし、当社は先行者としての自信があります」と話している。日本が生んだ環境技術が世界を席巻するか注目したいところだ。

〒362 0046 埼玉県上尾市大字巻丁目1番地  
お客様相談室 ☎0120 67 2301  
<http://www.nissandiesel.co.jp/index.html>

## 次世代エネルギー バイオ燃料の可能性を研究!!

### 群馬大学 志賀聖一 助教授

石油に代わる自動車燃料として、穀物などからつくる「バイオ燃料」が注目を集めている。バイオ燃料は、燃焼時に放出される二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）が植物の成長時に吸収したものと同量であるため、大気中のCO<sub>2</sub>を増加させない利点がある。プラジルではさとうきびからバイオ燃料を製造、実用化していることはよく知られているが、日本の自動車メーカー各社も、原料高や深刻化する温暖化問題の流れからバイオ燃料を利用できるエンジンの開発を行いつつある。

とはいうものの「利点ばかりというわけではない」と話すのは、バイオ燃料研究者のひとりである群馬大学工学部の志賀聖一氏。志賀氏はい

るようなエンジンの基礎的研究から開発的研究まで幅広く行っている。

志賀氏は「穀物精製による燃料が普及したとしても、農地が狭くコスト競争力の低い日本は結局輸入に頼らざるをえない。また、穀物価格が高騰する可能性が大きく、流通や価格のバランスが崩れてしまうことも懸念されている。だからこそ、ライフサイクルアセスメント（LCA）を意識して研究・開発に取り組みなければならぬ」と話す。LCAとは、製造から廃棄・リサイクルまで一連のライフサイクルの過程を通じて、より環境負荷の少ない製品やサービスづくりを目指す動きのこと。バイオ燃料の産業化が実現するかどうかは、日本の産業構造を全体でとらえていく必要がある。志賀氏の研究にますます注目が集まりそうだ。



志賀氏の研究に注目が集まる

〒376 0052  
群馬県桐生市天神町1 5 1  
☎0277 30 1516  
<http://www.me.gunma-u.ac.jp/>

もずくから光産業まで自慢の技術が集合!!

# 自社商品アピールコーナー

イブニングサロンでは毎回、自社商品をアピールするコーナーを設けています。今回は北海道から沖縄まで全国から4社が自慢の商品や情報を持ってプレゼンテーションに挑みます。「自社で取扱いたい」という企業がありましたら、ぜひ交流会で交渉してみてください。

## 光産業の創成を追求

光産業創成大学院大学・部谷 学氏



光ビジネスの最前線

光技術を中心としたシーズとニーズの融合による新産業の創成を目指した大学院大学。学生には企業を実際に設立させ、3年間運営してもらおう。そこでビジネスモデルを構築し、実績を失敗をまとめて論文にすることで、博士号を授与するというユニークな仕組みを持っている。隣接する浜松ホトニクスが持つ貴重なシーズをどのようにビジネスに結びつけるか、多方面からの注目を集めている。

〒431-1202 静岡県浜松市呉松町1955番1  
☎053-484-2501  
<http://www.gpi.ac.jp/>

## 沖縄モズクを練り込んだそば

シニア技術者集団ATAC 荒川守正氏



健康効果も抜群のモズクそば

ATACは、企業OBがノウハウを生かして社会貢献を展開している技術者集団。今回は、沖縄のATACメンバーが展開する八重山モズクそばをPR。これは沖縄県八重山地方の海で育った天然モズクを麺に練りこんだもの。モズクの中に含まれるフコイダンをタッブリ使用しているので、健康効果はバツグン。しかも合成保存料、合成着色料、化学調味料などは一切使用していないスグレモノだ。

(株)八重山の宝  
☎0980-82-4826  
<http://yaenotakara.jp/>  
<http://www.atac.ne.jp/> (ATAC)

## 世界トップクラスのマシニング技術

(株)松浦機械製作所・池田正幸氏



同社自慢の「CUBLEX-25」

同社は1935年の創業以来、モノづくりでオンリーワン技術に挑戦し続け、福井を飛び出しグローバル規模で展開しているプロ集団。主力製品は産業用機械類、工具、工作機械などで、とくに複合加工を行なうマシニングセンターの開発設計・製造では世界でもトップクラス。なかでも「CUBLEX-25」は5軸マシニング、旋削、研削の3つの機能を1台に集約したパワーマシンで同社の自信作だ。

〒910-8530 福井県福井市漆原町1-1  
TEL0766-56-8100  
<http://www.matsuura.co.jp/>

## 吸湿性バツグンの自然素材

鈴木産業(株)・鈴木徳雄氏



吸湿性は炭を上回る

北海道産稚内層珪藻岩を原料にした製品をつくるバイオニア。そのひとつが「豊ヘルス」という内装用タイル。湿度が60%以上で吸湿し、湿度が下がると放湿するという自律性自然呼吸の機能を持ち、消臭効果により室内をさわやかにする室内壁装材。また、床下に撒くだけで、カビ・ダニの発生防止、消臭、結露防止に効果がある「豊ドライ」なども販売している。

〒070-8006 北海道旭川市神楽6条11丁目1-24  
TEL0166-61-4741  
<http://www1.odn.ne.jp/suzuki-sangyou/>

自慢の技術をPRしたい企業のためのメッセージボード

## AD Space

掲載ご希望の方はご連絡ください  
[ryot@tohopress.com](mailto:ryot@tohopress.com)

## お客様の高度なニーズを実現いたします

Jeyecore (ジェイコア) が50μ以下の超微細加工を実現!!



(株)ジェイネット

TEL: 048-973-1030  
<http://www.jng.co.jp/>

# NPO法人イノベーション パートナーズが活動開始!!

「新都心イブニングサロン」から生まれたNPOが本格展開を開始した。

新都心イブニングサロンの世話人やベンチャー支援のプロたちによって、06年に設立されたNPO法人新都心イノベーションパートナーズは、埼玉県から「イノベーション」の開催・運営を受託。1月27日には開塾式が行われ、第1回目（全3回）の講義が行われた。同塾では特許取得や産学連携、ビジネスマッチングといった実践的なノウハウを学べるようになっていく。

第1回目は野長瀬裕二・山形大学教授による「イノベーション創出企業のマネジメント」と内田保雄・アイピーオー社長による「新製品開発のコーディネート」が行

われた。ちなみに第2回目は2月11日、第3回目は2月24日に行われる。大学発ベンチャーで実績のある安田耕平・キャンパスクリエイト社長や松田修一・日本ベンチャー学会会長といった豪華な講師陣たちによる講義も予定されている。



NPO発起人の野長瀬教授

## サロン公式サイトに ニュース創刊号をアップ

第10回新都心イブニングサロンで創刊された「イブニングサロンニュース」は、新都心イブニングサロン公式サイトおよび発行事務局の東方通信社サイトにてアップされています。第3号までアップしていますので、ご覧下さい。

今後引き続き、さまざまな角度からニュースを発信していきたいと思っております。新商品や新技術の開発や産学連携事業の開始といった新情報からご意見・ご要望までふってお寄せください。

新都心イブニングサロン公式サイト  
<http://www.otacci.or.jp/commons/evening.htm>  
 東方通信社サイト  
<http://www.tohopress.com>  
 問合せ：03-3518-8844 担当：滝口  
 e-mail：ryot@tohopress.com

## 月刊『コロンブス』が 元気企業を取材します!!

産業栽培誌・月刊『コロンブス』（東方通信社発行）には、野長瀬裕二教授の連載コーナーのほか、地元の元気企業を紹介するコーナーもあります。これまで、さいたま市産業創造財団の江田理事長（04年10月号）やNECパーソナルプロダクツの柴田執行役員（06年2月号）など、イブニングサロンの関係者・参加者たちの取材記事を多数掲載してきました。今後、取材を希望される方はご連絡ください。

問合せ：東方通信社 月刊『コロンブス』  
 編集部 TEL：03-3518-8844



「コロンブス」2月号

## イブニングサロンの主な世話人

江田元之（財）さいたま市産業創造財団・理事長/星野弘志 埼玉県産業労働部新産業育成課・課長/村重嘉文（財）埼玉りそな産業協力財団・顧問/野長瀬裕二（学）山形大学大学院理工学研究科・教授

## 主な企画運営委員

山田穎二（財）浜松地域テクノポリス推進機構・事業推進部長/江原秀敏 コラボ産学官・常任理事・事務局長/古川猛 月刊『コロンブス』編集長（東方通信社）/根津紀久雄 NPO法人北関東産官学研究会・理事長

## 秩父で「人工衛星」講演会開催

「秩父イブニングサロン」の設立で盛り上がる秩父地域では、現在人工衛星で町の産業と観光を活性化させようとしていく。さっそく「人工衛星を打ち上げる会」を立ち上げ、1月20日には、人工衛星研究の第一人者である東京大学大学院航空宇宙工学専攻の中須賀真一教授を地元へ招き、講演会（主催は西秩父商工会、西秩父商工会工業部会、秩父人工衛星を打ち上げる会、後援は小鹿野町、小鹿野町教育委員会、東方通信社）を埼玉県小鹿野文化センターにて開催した。

当日の朝日新聞・埼玉版には講演会開催のニュースが掲載され、地元の期待の大きさがうかがえた。講演会の冒頭では、西秩父商工会工業部会会長の垣塚正男氏（垣塚精機社長）が、ここに至るまでの経緯を観客に説明。月刊『コロンブス』06年2月号に掲載された中須賀教授の記事を読んで「空き缶大の人工衛星がつくれることにビックリした。これなら自分たちでもできそうだ」と思ったと。その後、みんなに呼びかけてここまで動きになったことを説明した。

中須賀教授は講演のなかで「企業からもいろいろなアイデアが出てくることを期待したい」と秩父の活動にエールを送った。実際のところ、東大は超小型衛星キューブサットを数千万円前後のコストで、2~3年をかけて打ち上げた。中小企業でもがんばれば打ち上げられる可能性がある。とはいっても中小企業が本業を行いながら製作していけば、完成は5年~10年はかかってしまう。また秩父地域の中小企業だけでは、技術集積も足りない。

そこで「人工衛星打ち上げる会」では、全国から人工衛星づくりに興味ある企業や団体を募集することにした。この秩父地域をモデル地区とし、各都市で同様の「打ち上げる会」を発足。各地の「打ち上げる会」をネットワークし、ノウハウを提供しあったり、関連イベントを開催していく予定。興味ある方はぜひご一報ください。

人工衛星を打ち上げる会事務局（東方通信社内）  
 03-3518-8844  
 e-mail：ryot@tohopress.com



中須賀教授を囲む秩父のメンバー